

風話鈴香

発行所
 尼崎市小中島1-1-18
 社会福祉法人
 阪神共同福祉会 園田苑
 TEL06-6493-3731
 発行責任者
 理事長 中村 大蔵

私達の目指すもの

- 一、地域に開かれた施設
- 二、入居者、家族、施設、地域のみんなで作る福祉を！
- 三、老人と共に生きがいを見い出す生活を

社会福祉法人 阪神共同福祉会 園田苑

ご挨拶

施設長 関口 義信

初夏の青空が気持ちよく感じられる季節となりました。4月1日より、園田苑の施設長に就任させて頂きました。関口義信と申します。ご挨拶が遅くなり、申し訳ございません。日頃は、園田苑の運営に對しまして、様々な形でご支援、ご協力を頂き、心より感謝申し上げます。



2年前から流行しているコロナウイルス。引き続き、感染対策を行う日々が続いておりますが、今年度は、「い」ではなく、「コロナがあるから」「できない」「方法をとっても」「できる」方法を、全職員がしっかりと考え、協力し合いながら、入居者、



今まで、ご家族とお話させて頂く機会がなかったのですが、とても緊張していましたが、優しくお話しして下さる方ばかりで嬉しかったです。入居者の好きなことや自宅の様子など、色々ことをご家族からも聞いてみたいなど思いました。

(特養 末吉 真心)

お花見 その2

4月5日、天候に恵まれ、桜も満開の中、支援センター屋上にて、お花見会を開催することができました。コロナ感染が落ち着き始めてはいるものの、外出など世間的にはまだまだ自粛モードです。しかし、毎年恒例の花見だけは、ぜひ開催したいと意見を出し合い、手作りお花見弁当と、職員による安来節やソーラン節の出し物で、利用者の皆様をおもてなしました。

利用者の笑顔作りに取り組みたいと考えております。そして、私達の日々の取り組みが、地域の皆様への安心と豊かな生活の実現へとつながるよう、今後も精一杯取り組んで参りますので、よろしくお願い致します。



お花見 その1

4月9日、晴天の午後。ご家族の協力のもと、善法寺公園へ「お花見」散歩を行いました。私にとつて初めての行事で、エレベーター前での案内役として参加させて頂きました。御家族に会えた時の入居者の皆さんの嬉しそうな顔が、とても印象的で素敵でした。きっと、お花見に出かけること以上に、

職員が全員そろい踊ることは初挑戦でしたが、ご利用者に喜んで頂きたいという一つの目標が職員同士の一体感を生み、楽しい踊りができたと思います。また安来節では、ドジョウすくいを一人で面白おかしく踊った大上相談員をみて、利用者のお花見会が声を出して笑っておられました。また、訴えがある時には大声を出されるご利用者も、この時ばかりは踊りをじっくりと見つめ、笑っておられたことがとても印象的でした。



他のご利用者からも「ソーラン節も良かった」「上手でした」「かっこよかった」などのお褒めの言葉をたくさん頂き、さらに、お花見弁当も大好評！ほとんどのご利用者が完食されていました。

私たち職員だけで、全てできるわけではありません。少しでも、ご利用者の力になれるよう「利用者と共に歩んでいく」という気持ちを大切に、全てのご利用者が楽しく笑って過ごせるデイサービスを目指して、進んでいきたいと思っております。

(認知症対応型通所介護 大里 富美)

デイサービスのついで

晴れの5月3日。毎年恒例『藻川の鯉のぼり』を苑庭にて眺めました。エレベーターの中から待ちきれない様子の利用者の皆さん。玄関を出ると、目の前で気持ち良さそうに鯉のぼりが泳いでいます。「大きいね」「きれいね」という歓声と笑顔が弾けます。鯉のぼりを見ながら、子供の頃の話をしたり、苑庭に咲き誇る花を愛でたり、体操をしたり…と楽しいひと時を過ごしました。



コロナ禍ではありませんが、このような機会を持つことを、大変嬉しく思います。いつも以上に、利用者の笑顔が輝いた一日でした。

(併設型通所介護

榎 良子)



高齢者と職員が繋げていくことを座視できぬ

理事長 中村大蔵

わが苑にコロナが勃発（発覚）したのは4月9日のこと。瞬く間に感染は広がり、入居者29名に体調異変、職員11名がPCR検査で陽性もしくは病変が見られました。

うち、7名の入居者が入院。職員は自宅謹慎とホテル缶詰となった。この時期、市内の老人施設でも同様のことが起こっていた。

発症者が3階に集中していたこともあり、そのエリアを「レッドゾーン」にして、緊急体制をとった。

関係機関と連絡を取りながら治療に努めた。尼崎市医師会から派遣された「対策班」医師と訪問看護ステーション、阪神医師協会の全面的協力を受け、4月26日、薄氷を踏む思いながらも一応の終息をみた。

今回の事態は、感染症にとつては棲み心地のよい条件が整っている福祉施設の現状が露呈した。常に人々が密々状態の施設、とりわけ密着姿勢が基本の身体介護の施設は、ことが起これば建物全体を「病院化」することで対応しなければならぬ。それが如何に生活施設とは言え、意に反することをやらねばならない。

幸いなことに死者を出すことには至らなかったが、今後、いつなんどき同じようなことが起こらないとも限らない。

そろそろ老人福祉施設の抜本的見直しをやるべきだろう。私は以前から、老人ホームの一人当たりの基準面積と職員の配置基準を、それぞれ現基準の2倍にしたならば、感染症対策は半減すると断言してきた。

そのための財源確保を法人任せにするのではなく、厚労省をはじめとした行政が施策を抜本的に改める必要がある。

高齢者（利用者）と職員が繋げていくことを座視することは出来ない。

各事業の職員から、メッセージを募集しました。テーマは『今年度、私たちが目指すこと』です。

事務所

園田苑の理念である『老人とともに生きがいを見いだし、みんなで作る福祉』から、組織全体でお年寄りを支えるという考えを大切にしています。

事務員の仕事はデスクワークだけではありません。お年寄りと接することがたくさんあります。時には、「すみませーんテレビの音が聞こえないの・・・」とリモコンを耳に当てているお年寄り。「リモコンでは聞こえないよ」、なんて言えません。イヤホンを耳に入れてあげると「よかったー直ったわ。ありがとう。」と笑顔で感謝。この笑顔は私たちにとっては魔法の薬となり、張りつめられた緊張感を一瞬で和らげてくれます。

昨年度は事業閉鎖もあり、職員の入替わりがたぐさんありました。先日のクラスター発生時にも、組織全体でお年寄りを支えるということの大切さを改めて感じました。

今後は、より一層、多職種との横のつながりを強化し、組織全体でお年寄りを支え、私たち事務員も丁寧な対応を心がけ、入居者がその人らしく過ごせるように努めて参ります。

特養

4月11日、特養3階においてコロナのクラスターが発生。入居者・ご家族に心配や不便をお掛けし、大変申し訳ございませんでした。そんな中、ご家族から「職員の皆さんも無理せず自分の体の事も考えてね。」「大変だと思うけど職員の皆さんは大丈夫ですか。」と私たちの心配まで下さり、とても励みになりました。お心遣い本当にありがとうございます。

この2年間、度々、面会中止の期間がありました。今後は、入居者と家族、職員が一緒に過ごせる機会を多く作り、良い関係性を作っていきたいと思えます。近い将来には、家族会を再結成し交流する中で、職員と家族が交換日記をしたり、旅行に行



ったりするぐらいの、気心知れた関係になれると嬉しいです。

穏やかな日々を取り戻せるようお願いしながら、コロナ禍でも、私たちに出来る事は何かを考え、後悔しない介護が行えるように、日々精進していきます。

併設デイ

「楽しく、元気に、気持ちよく。」をモットーに、1日、約28名の利用者と8名の職員で、賑やかな毎日を送っています。時々、近所迷惑では？と思うほど、朝から夕方まで笑い声があふれています。コロナウイルスの影響で、なかなか外出ができない中、利用者に少しでも季節を感じて頂こうと、玄関やフロア内の壁一面

には、利用者と一緒に作った季節感あふれる作品が飾られています。また、この作品作りでは、達成感や喜びを一人でも多くの利用者に感じて頂くことを目標に、たくさんの方が参加できるように工夫しています。



園田苑のデイサービスを活用して頂きながら、利用者が住み慣れた場所で、これまでの生活を続けていくためには、どうすればいいのか？を日々考え、利用者、家族に「安心して通って頂けるデイサービスを目指し、努力していきます。」

認知症対応型デイ

デイサービスでも様々なイベントが自粛される中、昨年度は11月に作品展を実施することができました。送迎時にはデイサービスの様子をお知らせすることがありますが、全てを伝えることができないため、展示した写真などを通してデイの様子や活動の内容を知って頂く良い機会となりました。

今年度は、家族との連携をより密にしていくと共に、利用者自身が「主役」になれる機会を作り、認知症があっても「その人らしく、



人と関わり続けながら、住み慣れた地域で暮らすことを目指します。

そのために、デイサービスの職員だけではなく、支援センターの職員との協働、家族や地域の皆様のご協力を頂きながら、より信頼される職員集団を目指し、丁寧な支援を行って参ります。

ホームヘルプ

医療・介護・福祉、介護予防、生活支援等としてかかりと連携し、利用者一人ひとりが尊厳を保ちながら、住み慣れた場所で、できる限り自立した生活を送ることを目標に、自宅での生活を支援しています。

望む生活の形は、十人十色。その人らしい在宅生活を続けて行けるように、御本人や関係者と力を合わせながら進めつつ、地域の力（インフォーマルなサービス）の発掘や利用なども、積極的に行ってきたいと考えています。



居宅介護支援

（ケアマネジャー）
4月より、ケアマネジャーは、2名体制でのスタートとなりました。

今年度は、利用者の年間生活パターンを把握し、理解を深めると共に、利用者様の日頃の思いを代弁し、柔軟な対応ができるケアマネジャーを目指して、意識的な関わりと努力、自己研鑽を積んで頑張っています。

この数年、コロナ禍の影響で、地域で生活をする皆様とお会いする機会が少なくなりました。今年度は自治会の会合や地域のイベントへの参加など、積極的に地域との交流やネットワーク作りをしていきたいと思っております。



地域包括支援センター

今年度は、「地域に向く」を目標に掲げ、地域での活動を強化します。

この2年半、コロナ禍で、地域のいきいき百歳体操やふれあいサロンも次々と休止になり、人との交流が少なく、閉じこもりの生活を余儀なくされてきました。そんな中、「体



が動きにくくなったわ」「頭がぼーっとする」などの声を聞くものの、具体的な支援が行いにくい日々が続いていました。

そのコロナ禍もようやく落ち着く気配を見せ始め、百歳体操やふれあいサロンも再び動き出しています。

園田南地域包括としては、そうした活動のサポートだけではなく、認知症サポーター養成講座や地域のネットワーク作りなど、自ら積極的に動き、地域資源を構築していきたいと考えています。

グループハウス尼崎

この2年間、コロナ感染症予防の為、ハウス内での様々な行事や、子供食堂などの地域とのふれあい中止となっていました。また、入居者の半数がコロナ禍での入所のため、何の行事もない状況が当たり前の毎日を送っていました。今年度は、コロナ禍の自粛要請が緩和されていることを受けて、ハウスならではの地域活動を復活させ、月々のイベントや入居者が一番楽しみにしている周年行事が、以前のように賑やかに行えるよう、工夫を凝らしていきたいと思っております。



編集後記

少し動くと、汗がタラッ。ムシムシ、ベタベタ。過ごしにくい梅雨の季節になりました。「コロナが少し落ち着いたら」と思いきや、次は、大雨による被害が起こらないか...心配することが絶えません。

この不安を和らげてくれるのは、「備え」と「人」ではないでしょうか。

近所や身近な人に「何かの時には助け合いますよ。うね」と気軽に言える関係を作っていききたいものです。

まずは、「おはようございます」「いってらっしゃい」のあいさつから。㊦

法人理念

阪神共同福祉会は
すべての人の命を大切に
地域福祉の担い手となる